

天水中学校だより

文責：杉野 晃一

R6教育スローガン 夢・笑顔(自律と協働の育成)

巳年は、書き初めからスタートしました。

保護者の皆様、今年もよろしくお願いいたします。

お正月らしく年明けは書き初めからスタートしました。それぞれの学年のお題は、1年生が「友情」、2年生が「信念」、3年生が「挑戦」でした。来照寺から笠 哲郎 様、笠 久美子 様ご夫妻に来校いただき、10日(金)と14日(火)の2日間、学年ごとに2時間ずつ多目的ホールでご指導いただきました。各学年とも終始、水を打ったような「静」の雰囲気をつくり、集中して書道に取り組む姿に感動しました。書道の日本文化としての精神性の高さみたいなものを、生徒たちが真剣に向かうその空気感から教わりました。



今月も読み聞かせありがとうございました。

年明け早々、今月も読み聞かせ活動でお世話になりました。今回は、1年1組が本山 由貴 先生、1年2組が樋口 かおり 様、2年1組が吉田 賀津子様、3年1組が東田 留美 様に読み聞かせをしていただきました。それぞれの教室で、4名の方々と生徒たちのやり取りも交えながらの読み聞かせ活動で、今回もとても温かい雰囲気でした。ありがとうございました。



「てんすいふれあい感謝デー」にて堂々の意見発表

11日(土)、天水公民館多目的ホールにて「さしより天水」の皆様が主催者として開催されました。その中で、新生徒会執行部である1年1組の松下 ささ さんと2年1組の上村 莉乃 さんが意見発表をしました。素晴らしい発表でした。2人とも9月に熊本県立大学の学生さんたちといっしょに取り組んだ「もやいすと」を通して感じた「天水町の魅力」についてそれぞれの思いを語ってくれました。私は、初めて「てんすいふれあい感謝デー」に参加させていただきました。主催者の皆様の熱を感じるとともに、皆様のエネルギーからたくさんの元気をいただきました。



67年前、昭和32年の「山」津波(土石流)についてご講話いただきました。

22日(水)、1年生と2年生の生徒を対象に、昭和32年7月26日に天水町で起きた山津波の体験談を池田 純一 様、坂門 敬一 様、福島 邦治 様、谷水 直勝 様にご講話いただきました。67年前と比べると、今は天気予報等の情報、防災グッズ等の物資といった具合に、防災に関するハード面については、いろんなことが向上・改善されていると思います。その中で、4人の皆様のお話は、「災害が起きたときは隣近所の家族との連携が何より大事。向こう三軒両隣との日頃からのコミュニケーションを大切に。」と、ソフト面の重要性を力説されていたことが印象的でした。今年度の防災教育の取組では、防災講話の事前学習(能登地方の炊き出しのお話)も含めて、「もし災害が発生したときに、『自分には何ができるか。』『まわりの人といっしょに何ができるか。』についても考えました。今回の学びを通して、防災教育は結局「人と人のつながり」が肝であるということを改めて強く感じました。

